

豊かな「ことば」を育む 暗唱詩文集 指導の手引き

暗唱詩文集の特長

生まれ育った家庭環境などにより、子供の語彙は、大きく異なっています。子供が美しい日本語に触れて暗唱することで、日本語の素地を身につけることができる教材です。また、本教材を使用することで、下記の「学習システム」により、国語力、とりわけ書く力をアップさせることができます。

1. 音読練習の仕方
2. 「自分テスト」の仕方
3. 「暗唱テスト」の仕方

音読は様々なバリエーションで行います。そのため、生徒は飽きずに十分な練習量をこなしてしまいます。覚えるためのシステムがあるので、国語が苦手な生徒でも成功体験を積むことができます。「暗唱できた」という成功体験を積むことで、努力の大切さも学ぶことができます。また、自己肯定感も高まり、意欲も増します。国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間や学級活動、朝読書の時間などでも活用できます。ひとり1冊ずつ配付してお使いください。

以下、暗唱指導のシステムを紹介します。

1. 音読練習の仕方

テンポよく変化のある繰り返して10回音読させます。例えば、次のようにすると生徒たちは楽しく練習することができます。

- 1回目 ゆっくり追い読み
- 2回目 スピードアップして追い読み
- 3回目 教師と一行交代読み（教師が先）
- 4回目 教師と一行交代読み（生徒が先）
- 5回目 男女で一行交代読み（男子が先）
- 6回目 男女で一行交代読み（女子が先）
- 7回目 となりとペアになって、一行交代読み
- 8回目 となりとペアになって、一行交代読み（順序交替）
- 9回目 古文・現代語訳対応読み（生徒が古文、先生が訳文）
- 10回目 一斉音読

例えば、「35. 竹取物語」の場合。（P.51 に掲載）

指示1 学習日を書きます。

生徒の半数が書いたところ、次の指示を出します。

指示2 ついて読みます。「竹取物語」。

最初は丁寧にゆっくりと文節や意味の切れ目で切って範読し、追い読み（教師が読んだところを、生徒が復唱すること）をします。

声が揃っていないければ声を揃えさせる、暗唱詩文集を両手で持たせる、姿勢を良くさせる、といった指導を入れながら、テンポよく、明るく楽しくやるのがコツです。評価は「よし!」「上手!」などと短くする方がよいです。

指示3 マル1を赤鉛筆で塗りなさい。

読んだ回数①を塗らせます。外から内に丁寧に塗るように言います。

次に、一行ずつ追い読みをさせます。

指示4 スピードを上げます。「竹取物語」。

読んだ回数②を赤鉛筆で塗らせます。

一行交替で読ませます。

指示5 一行交替読み。先生はタイトル、みんなは「今は昔」の行。

テンポ良く読むとたいへん盛り上がります。

指示6 みんなから、さんはい。

読んだ回数③・④を赤鉛筆で塗らせます。

男女で一行交替読みをさせます。

指示7 男子から。

指示8 女子から。

読んだ回数⑤・⑥を赤鉛筆で塗らせます。

教室を半分に分けて、一行交替読みをさせます。

指示9 こちら側から。(教室の右半分を指す。)

指示10 こちら側から。(先ほどと反対側を指す。)

読んだ回数⑦・⑧を赤鉛筆で塗らせます。

古文・漢文の場合は、古文・現代語訳対応読みも有効です。

指示11 先生は現代語訳、みんなは古文。
「竹取物語」。

(竹取物語)「今となつては昔の話、竹取の翁というものがいた。…」。

教師が現代語訳を読み、生徒は古文を読みます。これを行うことによって、説明することなく本文の現代語訳を教えることができます。

読んだ回数⑨を赤鉛筆で塗らせます。

最終確認として全員で一斉音読させます。

指示12 全員で、「竹取物語」。さんはい。

「自分の一番うまい読み方で一回読みなさい」という指示も有効です。

読んだ回数⑩を赤鉛筆で塗らせます。そこまでやって、個々の暗唱練習に入ります。

2. 「自分テスト」の仕方

すらすらと読めるようになったら、下敷きなどを使って、▶◀印の所から下を隠します。下から順に自分でテストをさせて、暗唱できたら、赤で合格を塗らせます。

一番上まで合格したら、テストを受けに行くことができます。

指示13 一番下の▶◀(さんかく)まで隠しなさい。

教師もやってみせます。

生徒が下敷きやノートで隠しているのを確認しましょう。

指示14 隠して読めたら、(その横の)合格を赤で塗ります。

指示15 もう一つ上の▶◀（さんかく）まで隠しなさい。

指示16 ここまで隠して読めたら、合格を赤で塗ります。

指示17 さらに上の▶◀（さんかく）まで隠しなさい。

指示18 ここまで隠して読めたら、合格を赤で塗ります。

短い文章の場合、**指示 14** からは間延びしないよう、テンポ良く行うのがコツです。

3. 「暗唱テスト」の仕方

教師は前で待っています。

指示19 一番上の▶◀（さんかく）まで隠しなさい。

指示20 一番上まで隠して読めたら、合格を赤で塗ります。
塗ったら、先生にテストを受けに来ます。テストではすらすらと暗唱できたら合格です。少しでも間が空いたり、つかえたりしたら不合格です。

ポイントは、厳しく、すぐに評定することです。だからこそ、生徒が熱中します。テストは何度挑戦しても構いません。

合格したら、タイトル上の桜マークに色を塗り、「暗唱できた日」に日付を書かせます。

PC・タブレットやスマートフォンなどで、ウェブアプリがご利用いただけます。誌面と同じ感覚で操作でき、子供たち自身が気軽に学習できるコンテンツです。もちろん、先生がスクリーンに映して一斉授業することもできます。

※コンテンツへのアクセスはこちらから→
<https://anshou.tiotoss.jp>



暗唱指導をされる先生のための Q & A

Q1. 全員が暗唱できるようになりますか？

A1. できるようになります。そのためには、「暗唱の仕方」を教える必要があります。本教材は向山洋一氏の暗唱指導をベースとしています。まずは指導書の通りに行ってみてください。

Q2. 毎時間やらないといけませんか？

A2. 毎時間必ず行くと決める必要はありませんが、例えば漢字練習の後に使用すると型を決めておけば、生徒にも構えができて授業が安定します。休み時間に練習したり、家で覚えたりする生徒が増えてきます。

Q3. 授業中に全員の暗唱テストをする時間がありません。

A3. 早く合格した生徒2～5名を「試験官」に指名し、全員に紹介します。先生と試験官のどちらでテストをしても合格とします。

また、「国語の授業中でのテストは一人一日2回とする。」など担当される教室の実態に合わせてご指導ください。休み時間や放課後、先生の時間があるときにテストを受けても良いというやり方もあります。授業のなかでは5～10分くらいで行います。

Q4. 長い文章になると、生徒の意欲がなくなります。どのように指導しますか？

A4. 長い文章は何か所かに区切り、テストの範囲を短くすると暗唱しやすくなります。

例えば、「18. 小諸なる古城のほとり」(P.30～31に掲載)を暗

唱させるとします。

この詩は3連からできています。3連を一度に暗唱させてはステップが大き過ぎます。よって、2つに分けます。1連と、2・3連です。

1連は、授業として行います。

1. 教師が読み、続けて読ませる。
2. 起立させ、2度読んだら座らせる。座った生徒は、3度目を読んでいるように指導する。
3. 全員を起立させ「最初の2行」を暗唱させる。暗唱できたら座らせる。座った生徒には、続きを暗唱させる。
4. 大半の生徒が座ったところで、全員を着席させ、1連全部を暗唱できる生徒に暗唱させる。できたら、みんなで拍手。ここで初めて「暗唱テスト」を告げる。
5. 合格した生徒を試験官に任命し、全員に紹介する。教師でも、試験官役の生徒でも、どちらの合格でも認めることを告げる。試験官は5名くらいまで採用する。
6. 黒板に氏名箋（右図参照）をはる。
※アプリで管理など、実態に応じて行う。
7. タイトルに①「小諸なる古城のほとり1連」と記入。
8. 合格した生徒は、自分の氏名欄に赤丸をつける。
9. 2行目に②「小諸なる古城のほとり2・3連」と書く。
10. 合格した生徒は、②の練習をする。

この流れを参考にして指導してみてください。かなりスムーズに暗唱の成功体験を積ませることが可能です。

	① 「小諸なる古城のほとり 1連」	② 「小諸なる古城のほとり 2・3連」
1 相川	○	
2 飯田		
3 上野		
4 遠藤		
5 大島	○	
6 加藤		
7 木村	○	
8 久米		

Q5. テストを受けに来ない生徒がいます。

A5. 生徒のタイプによって様々な手立てがありますが、例えば「この一週間、一度もテストを受けに来ていない人、先生のところへいらっしやい」と授業中に優先して行う、昼休みや放課後などに時間をとる、といった方法もあります。どうしても乗ってこない生徒や配慮が必要な生徒がいる場合、個別に声がけをします。場合によっては、暗唱範囲を狭くして、合格を体験させ、自信をもたせてもよいです。教師が明るく励まし続けることも大切です。

Q6. 早く終わった生徒が遊んでしまいます。

A6. 次の課題を暗唱させておきます。本教材は総ルビで、覚え方も決まっているので、自力で進めることができます。そのように積極的に取り組んでいることを、教師が褒め続けられればよいのです。

Q7. どんどん暗唱をしてしまう生徒がいます。

A7. 意欲の高い生徒はどんどん覚えてしまいます。それを禁止する必要はありません。先に進ませても構いませんし、教科書教材の一部、資料集、百人一首など他教材から自分で選択させて暗唱させてはいかがでしょうか。

.....
豊かな「ことば」を育む 暗唱詩文集 指導の手引き

2023年3月1日 第1刷発行

編著 TOSS 中学高校向山型国語授業研究会 代表 長谷川博之

監修 向山洋一

発行所・販売元 教育技術研究所

〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目4番12号 TOSS ビル

TEL. 03-3787-6564 FAX. 03-5702-2384

<https://www.tiotoss.jp/>

101553

